

「ビブリオバトルに挑戦しよう」

～聞き手を想定し、論理的に話す～

山梨大学教育人間科学部附属中学校
富高 勇樹（とみたか ゆうき）

【キーワード】 ビブリオバトル 振り返り ICTの活用

【授業の概要】

生徒にとっては2年生になってはじめての「話すこと・聞くこと」の学習である。生徒が目的意識を持って「話すこと・聞くこと」に取り組めるように、自分のおすすめの本の魅力を説明する活動を設定した。本校では、朝読書の取組も習慣化していたり、昨年度から読書生活デザインノートを活用して読書記録をまとめたりしている。読書は、生徒にも身近に感じられ、また多くの情報もあると考え、自分のおすすめの本を紹介するビブリオバトルを言語活動に設定した。

この活動を通して、伝える相手や目的に合わせて、論理的な構成や展開を考えて話す力を身につけさせたいと考える。しかし、話すことの指導では、聞き逃しや見逃し、振り返りがしにくいなどが考えられるため、iPadを活用して有効な振り返りを目指した。(本単元で使用するiPadは山梨県立大学の八代一浩教授にご協力いただいた。)

1. 目指す言語能力

「ビブリオバトルに挑戦しよう」

～聞き手を想定して、論理的に話す～

【指導事項 話すこと・聞くこと 中2】

A-イ 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。

(A-オ) 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること

【言語活動例 話すこと・聞くこと 中2】

ア 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。

2. 教材名 「印象に残る説明をしよう プレゼンテーションをする」(光村図書出版「国語2」)

3. 生徒の実態

第2学年4組、男子20名、女子20名の計40名のクラスである。

生徒は、国語の学習に対して意欲的に取り組んでいる。新聞記事を活用したワークシート、帯単元的に行っている漢字学習などにも真面目に取り組んでいる。また、国語科で行っている新聞記事を利用した意見交換掲示にも自分の考えを書き込む生徒も多く、自分の考えを発信することにも興味を持っている。

しかし、昨年度と比べ、交流場面や考えの発表場面でも積極的に発言を行う生徒が少なくなっているように感じられる。自分の考えを発信することに関心はあっても、話すことになると消極的な生徒が多いように思う。そこで、自分の思いや考えをどのように伝えれば、聞き手に分かりやすく伝えることができるかを考え、今後の言語生活に生かしていけるように本単元を設定した。

4. 指導の内容と言語活動、教材の関わり

(1) 「言語活動を通して知識・技能を活用させ、思考力・判断力・表現力等を育むための手だて」

本単元では、生徒が目的意識と相手意識をもって活動に取り組めるように、「ビブリオバトルに挑戦しよう」という言語活動を設定した。ビブリオバトルは立命館大学の谷口忠大氏が考案した書評ゲームである。

「ビブリオバトル」とは、おすすめの一冊を持ち寄り、本の魅力を紹介しあう書評ゲームである。

ビブリオバトルには、公式ルールがあり、

- ①発表参加者が読んでおもしろいと思った本を持って集まる。
- ②順番に1人5分で本を紹介する。
- ③それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。
- ④全ての発表が終了したあとに「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めた本を「チャンプ本」とする。

(谷口忠大『ビブリオバトル 本を知り人を知る書評ゲーム』・文藝春秋より)

本単元では、公式ルールを一部変えてビブリオバトルを行う。

- ①発表者が読んでおもしろいと思った本を持って集まる。
- ②順番に1人2分で本を紹介する。
- ③それぞれの発表の後に参加者全員で発表に関するディスカッション(質問)を2分行う。
- ④全ての発表が終了したあとに「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めた本を「チャンプ本」とする。

②本の紹介時間を2分と短くしたことは、生徒の読解には個人差があり、プレゼンテーションの準備が不十分になることが予想されたからである。本の紹介時間を、何を話してよいか分からず、人前で話すことに苦手意識を感じないように時間を短くした。時間を短縮することで、さらに、聞き手に本のおもしろさを伝えるために、自分の考えをまとめ、分かりやすい構成や展開を思考・判断しなければならないと考える。

もちろん、この単元は「読むこと」の単元ではないので、読解を苦手とする生徒に、読解の観点(これまでの既習の学習用語やその本にまつわるエピソードなど)を提示したり、全体で確認したりして全員がビブリオバトルに臨めるようにした。あとは基本的に公式ルールに則って、ビブリオバトルを行う。

また、このビブリオバトルはチャンプ本を決定するところにポイントがある。人から評価されるという緊張もあるが、話し手は「チャンプ本に選ばれたい、選んだ本の魅力を伝えたい」という思いから相手や目的を意識した活動を行うことができると考える。さらに、チャンプ本のプレゼンテーションを分析する活動を行うことで、自分のプレゼンテーションとチャンプ本のプレゼンテーションを比較し、聞き手に伝わる話の構成や展開について考えを深めることができると期待できる。

聞き手は評価することから自分や他の人のプレゼンテーションと比較しながら、意識的に聞かなければならない。ただ、その評価が主観に偏ってしまったり、人間関係に影響されてしまったりするおそれがある。しかし、プレゼンテーションをiPad(アイパッド)を用い、録画して分析する活動を行い、聞き手としての自分の評価を客観的に振り返る機会になると考える。

以上のことから、ビブリオバトルを通して、聞き手を想定して、分かりやすい構成や展開を考えて話す力を身につけさせることができると考える。

(2) 本指導計画において意識させたい「言語意識」

【 5つの言語意識 】

- | | |
|-------|------------------------------------|
| ・相手意識 | クラスの仲間に対して |
| ・目的意識 | おすすめ本の魅力を伝え、読んでもらうために |
| ・場面意識 | おすすめ本を紹介する場面で |
| ・方法意識 | ビブリオバトルを通して |
| ・評価意識 | 聞き手を想定して、分かりやすい構成や展開を考えて話すことができたか。 |

5. 本単元にかかわる日常の取り組み

○学習過程を意識させる

生徒に学習活動を意識させることは、授業に対しての構えをつくらせることができる。

「気づく→考える→表現する」という小さな学習サイクルを計画的に仕組む。

今年度は、昨年度に引き続き、ポートフォリオを使って、学習活動を振り返ることができるようにしている。

○交流を取り入れた授業

ファシリテーションの考え（他者との協同（働）による知的相互作用の促進）を取り入れ、日々の学習の中で、自分1人で学習を完結させるのではなく、自分の考えを深めるために他者との交流を通して、自分の考えを表現し、共通点や相違点に気づき、もう一度考えるというサイクルを意識できる。

○ワークシートを活用して、自分の考えを形成する活動

新聞記事を活用したワークシートを使い、社会で起きている事柄に対して、自分の考えをもつことができるように、毎日取り組んでいる。国語科の授業と関係のある記事を使用し、事前学習にも活用している。本単元では、図書館司書による本の紹介記事（山梨日日新聞）を利用した。

○自分の考えを他者に発信する活動

新聞記事を活用した意見交換掲示物を作成し、日常的に自分の考えを他者に発信することができるようにしている。また、自分の考えに対する他者の考え、反応を振り返り、自分の考えを見直すこともできる。

○読書生活デザインノートの利用

昨年度から、読書記録を残したり、自分の読書傾向を振り返ったりするために利用している。

6. 指導計画と評価計画（ A領域「話すこと・聞くこと」全18時間中の6時間 ）

（1）評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す能力・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
①聞き手を想定して、分かりやすい構成や展開を考えて話そうとしている。 ②グループの他の仲間の発言から分かりやすい話の構成や展開について考えようとしている。	①プレゼンテーションに対する聞き手の反応や質問を想定して、分かりやすい構成や展開を考えて話している。（イ） ②話し合い（交流）活動を通して、分かりやすいプレゼンテーションの構成や展開について考えを深めている。（オ）	①相手や目的に応じて、話の形態や展開の違いがあることを理解している。 (1) イ（オ）

(2) 学習過程の概要 (単元構想表)

単元(教材)名		A領域 印象に残る説明をしよう ビブリオバトルに挑戦しよう (全18時間の6時間)			
言語活動例		ア 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。			
指導事項		藍	学習活動	評価規準	時
ビブリオバトルに挑戦しよう	ア 【話題設定や取材】 社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集めて整理すること。		<ul style="list-style-type: none"> 教科書を使って、プレゼンテーションの流れを確認する。プリントを使ってビブリオバトルについて学習し、おすすめの本を選ぶ。 図書委員会で行ったビブリオバトル(昨年度)のチャンプ本に選ばれた生徒の映像を見て、ビブリオバトルのイメージをつかみ、学習の見通しをもつ。 目的、相手を再確認し、おすすめの本の情報を集め、整理する。(ポストイットやマトリクス表の利用) 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や相手に応じて、必要な情報を集めて、整理している。 	1 2 3
	イ 【話すこと】 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。	◎	<ul style="list-style-type: none"> 相手を想定して、話の構成メモを作成し、話の構成や展開を工夫して話す練習を行う。 ビブリオバトルを行い、聞き手に本の魅力が伝わるように話す。 	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションに対する聞き手の反応や質問を想定して、話の中心と付加的な部分との関係に注意し、分かりやすい構成や展開を考えて話している。(構成メモ・1枚ポートフォリオへの記述・プレゼンテーションの様子) 	4 5
	ウ 【話すこと】 目的状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。				
	エ 【聞くこと】 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること。		<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションの構成や展開を比較しながら、グループの仲間の発表を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> グループの仲間のプレゼンテーションを聞き、分かりやすかったか、読みたくなったかという観点をもとに評価している。 	5
	オ 【話し合うこと】 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。	○	<ul style="list-style-type: none"> チャンプ本に選んだプレゼンテーションを分析し、論理的な構成や展開について考え、グループの仲間と話し合う(交流)。(本時) 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い(交流)活動を通して、分かりやすい話の構成や展開について考えを深めている。(交流の様子・1枚ポートフォリオへの記述) 	6
	関連する〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕	イ(オ) 相手や目的に応じて、話の形態や展開に違いがあることを理解すること。			言①
国語への関心・意欲・態度に関する評価	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手を想定して、分かりやすい構成や展開を考えて話そうとしている。 グループの他の仲間の発言から分かりやすい話の構成や展開について考えようとしている。 				

(3) 指導計画と評価計画

指導計画 (A領域 5/全18時間)

	学習活動	指導上の留意点	Aの姿	Cの生徒への手だて
第一次 1時	○教科書を使って、プレゼンテーションの流れを確認する。プリントを使ってビブリオバトルについて学習し、おすすめの本を選ぶ。	・これまでの読書体験を振り返ったり、余裕を持って本を選べたりできるように1週間前から取組を行う。		
2時	○学習全体の見通しをもつ。	・図書委員会で行ったビブリオバトル(昨年度)のチャンプ本に選ばれた生徒の映像を見て、ビブリオバトルのイメージをつかませる。		
第二次 1時	○目的、相手を再確認し、おすすめの本の情報を集め、整理する。	・既習事項を振り返りながら、情報を分類・整理させる。 ・ポストイットの利用やベン図やマトリクス表を利用し、自分の考えを可視化させる。	・目的や相手に応じて必要な情報を集めて、整理している。	・おすすめの本と自分との関わり(本との出会いや読後の変容)から想起させる。
2時	○相手を想定して、話の構成メモを作成し、プレゼンテーションの構成や展開を工夫して話す練習を行う。	・構成メモに、聞き手の反応を書かせるようにする。	・目的に沿った聞き手の反応を想定して、プレゼンテーションの構成メモを作成している。	・説明の仕方などの既習事項を振り返らせる。 ・自分の伝えたい本の魅力をしぼらせる。
第三次 1時	○ビブリオバトルを行う。	・前時に作成したプレゼンテーションの構成メモをもとに発表をさせる。	・目的に沿った聞き手の反応を想定して、プレゼンテーションの構成メモを作成し、話している。	・前時に作成した構成メモを見ながら発表させる。
第四次 1時 (本時)	○チャンプ本に選んだプレゼンテーションを分析し、論理的な構成や展開について考え、グループの仲間と話し合う(交流)。	・声の大きさや間の取り方だけでなく、プレゼンテーションの構成や展開に着目させる。	・分かりやすい話の構成や展開について、具体的な場面や効果を挙げながら話し合い、自分の考えを深めている。	・自分が投票したプレゼンテーションの良かったところを振り返らせる。

7. 本時の展開【6／6時間目】

- (1) 日時 平成26年7月4日(金) 14:10～15:00
 (2) 場所 山梨大学教育人間科学部附属中学校 図書室
 (3) 目標 グループの他の仲間の説明と比較しながら、分かりやすい話の構成や展開について考えを深めることができる。
 (4) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価について
つかむ 5分	1 前時の学習を振り返り、本時の目標を知る。 ・前時までの学習を確認する。 ・本時の目標、学習内容を知る。		
	本時の学習内容：チャンプ本に選ばれたプレゼンテーションを分析しよう。 「チャンプ本に選ばれた決め手は何だろう」		
深める 40分	2 5人グループでチャンプ本の映像を振り返りながら、チャンプ本に選ばれたプレゼンテーションの良さを話し合う。(15分) 3 5人グループでの話し合いの結果を1分間プレゼンテーションで発表させる。(15分) 4 グループの発表を聞き、全体で交流する。(10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさや間の取り方ではなく、プレゼンテーションの構成や展開に着目させ、分析させる。 ・想定した聞き手の反応と実際の反応、チャンプ本に選ばれたプレゼンテーションとグループの他のプレゼンテーションを比較させる。その際、欠点を見つけるのではなく、違いから良さを見つけさせるように指導する。 ・1分間プレゼンテーションで話し合った内容を発表させる。 ・発表を聞く際には、発表後、全体で交流することを伝え、自分たちとの話し合いの結果と比較しながら、聞かせる。 ・実際の映像を見せたり、チャンプ本に選ばれた生徒に実際に聞いたりしながら、確認させる。 	発言・1枚ポートフォリオへの記述
一般化 5分	5 本時のまとめを行い、1枚ポートフォリオに学習の振り返りを記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を通して、身に付いた力やどのような場面で使えるか、今後の課題など具体的に書かせる。 	1枚ポートフォリオへの記述